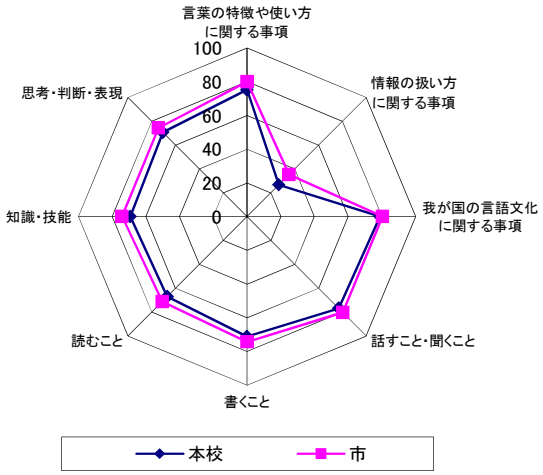
宇都宮市立鬼怒中学校 第３学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.2	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	26.6	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	78.9	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	76.9	80.4	77.7
	書くこと	71.2	74.3	62.9
	読むこと	67.0	71.2	65.8
観点別	知識・技能	69.2	74.1	68.4
	思考・判断・表現	70.7	74.3	67.0

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

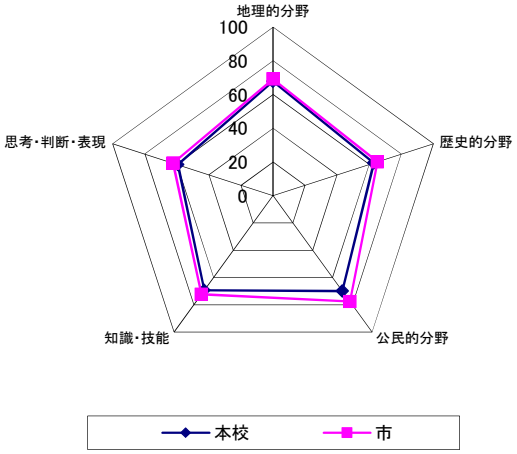
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	市の平均に比べ正答率が低い結果となった。 ○漢字の読みを答える問題に関しては、市の正答率と同じ程度であった。漢字を読むことについては基礎的な力がついていると考えられる。 ●漢字の書き、敬語の問題では、市の正答率から10ポイント以上低い問題が2問あった。漢字の形を曖昧に覚えてしまっていたり、丁寧語と謙譲語の区別がついていないことが原因として考えられる。	・漢字や敬語について、部首の意味や敬語の種類などを丁寧に指導していくことはもちろん、問題を解く回数を増やしていく。その際に、どこの理解ができていないのか、生徒の苦手としている箇所を見つけ指導に生かしていく。
情報の扱い方に関する事項	市の平均に比べ正答率が低い結果となった。 情報と情報との関係について理解し，自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する問題では，情報と情報との関係について理解し，論理の展開の仕方を捉える問題に比べ、正答率が高かった。 ●情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える問題の正答率が市の平均と比べ10ポイント以上低かった。	・説明的文章を読む際に、本文の大切な箇所に線を引きながら読む指導をすることで、頭の中で段落ごとの内容を整理しながら読めるよう授業を工夫する。
我が国の言語文化に関する事項	市の平均に比べ低い結果となった。 ○現代語訳を手掛かりに古典を読む問題では市の正答率を上回っている。古典と現代語を照らし合わせて読みながら古文単語の意味を捉える力がついていると考えられる。 ●歴史的仮名遣いの問題では正答率が市の平均より低かった。語頭以外のは行はわいうえおになるという決まりが定着していない。	・歴史的仮名遣いのルールを定着させることができていなかった。丁寧に指導したうえで、問題を解く回数を増やし、どのルールを利用して答えを導くのか、解答根拠まで理解できるよう授業を行う。
話すこと・聞くこと	市の平均に比べ低い結果となった。 ○自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話す問題では、正答率が9割を超えた。話し方の特徴を捉えることができている。 ●話し合いの進行を捉える問題の正答率が、市の平均と比べ4ポイント以上低かった。一人一人が話している内容は捉えられても、話合い全体の流れを捉えることができていない。	・授業で話し合い活動を積極的に取り入れるとともに、活動の中で司会者などの役割分担を決める。それにより、話合いにおけるそれぞれの役割がもたらす効果について考えさせる時間を設けていきたい。
書くこと	市の平均に比べ低い結果となった。 ○自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう工夫する問題では、正答率が市の平均を上回っていた。伝えたいことの要点をまとめて書く力が身に付いている。 ●多様な読み手を説得できるように文章の構成を工夫する問題では、正答率が市の平均より5ポイント以上低かった。構成とその効果の関係を捉えられていない	・書き手の意図を捉える指導ができていなかった。同じ内容でも、書き方を変えることで読み手に異なる印象を与えている文章に触れる機会を増やすとともに、伝えたいことをより強調するためにはどのような工夫が考えられるか、書き方の構成を工夫することについて指導していく。
読むこと	市の平均に比べ低い結果となった。 ○論理の展開の仕方、物語の展開の仕方を捉える問題では、正答率が市の平均より高かった。 ●文章を批判的に読みながら、登場人物の行動の意味について捉える問題の正答率が、市の平均より10ポイント以上低かった。	・物語において、登場人物の心情について直接的に描写がないとき、行動や人物像などから総合的に読み取ることが苦手な生徒が多い。心情を読み取る際に注目すべき要素（登場人物の行動、表情、情景描写、人物像など）を指導していくことで、苦手意識をなくせるよう努める。

宇都宮市立鬼怒中学校 第３学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	67.9	69.2	61.5
	歴史的分野	62.9	65.1	59.1
	公民的分野	69.9	77.6	71.6
観点別	知識・技能	69.3	72.2	66.8
	思考・判断・表現	59.4	62.3	53.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

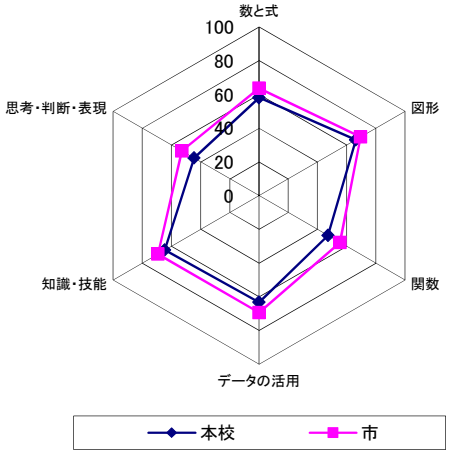
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	市の平均と比較し、正答率は1.3ポイント下回った。昨年度と比較すると、9.8ポイント上回った。 ○基礎的な知識や用語を問う問題は市の平均と同程度の正答率である。 ●観点が思考・判断・表現の設問の正答率が低く、日本の人口に関する記述問題では市の平均を3.6ポイント下回った。九州地方について資料をもとに判断する設問では、2問とも正答率が40%前後にとどまった。	・資料の読み取り問題や記述問題の正答率が低いため、生徒の資料活用能力と思考・判断・表現力を養うことを意識した授業展開が必要である。地図や表などを読み取る技能はもちろん、複数の資料を関連させて正確に要点を読み取る力を身に付けさせたい。 ・「日本の諸地域」の分野では、各地域の諸産業の特色を、単なる暗記にとどまらず気候や地形との関連を踏まえて理解させたい。
歴史的分野	市の平均と比較し、正答率は2.2ポイント下回った。他の分野に比べ正答率が５～７ポイント下回っている。 ○「古代までの日本」の分野では、正答率が市の平均を上回る問題が3問あり、基礎的な知識の定着が伺える。 ●弥生時代の遺跡に関する記述問題と問屋制家内工業についての理解を問う問題は正答率が40%を下回った。	・近世の内容は古代・中世に比べ事象同士の因果関係が複雑になってくる。人名や出来事の名称をただ暗記することに力を入れるのではなく、内容を理解することに重点を置いた授業展開が必要である。歴史の流れを掴みながら、「なぜそうなったのか」を説明できるように理解を深めさせたい。 ・産業に関する分野に苦手意識を持つ生徒が多い。テーマを絞った上で、時代をまたいで既習事項を整理することも必要である。
公民的分野	正答率は他の分野より高いが、市の平均を7.7ポイント下回り、その開きは他の分野より大きい。 ○物事の採決についての判断力を問う問題では、市の平均正答率と校内正答率が同じである。 ●憲法改正の手続きに関する問題は、市の正答率が56.5%であるのに対し、校内正答率は25.2%と31.3ポイント下回った。	・基礎的な用語を問う問題はよくできている。一方、興味を持って教科書の隅々まで学ぼうとする生徒は少ない。公民的資質を養うためにも、現代の諸課題や世の中のニュースを授業で取り扱い、生徒の関心を高めることが必要である。 ・地理・歴史的分野で学んだことを活かし、分野を横断して思考する力も身に付けさせたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第３学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	58.1	63.7	61.5
	図形	66.2	69.6	61.1
	関数	47.3	55.4	43.5
	データの活用	63.2	69.3	64.2
観点別	知識・技能	64.6	69.2	65.3
	思考・判断・表現	44.6	52.9	42.1

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

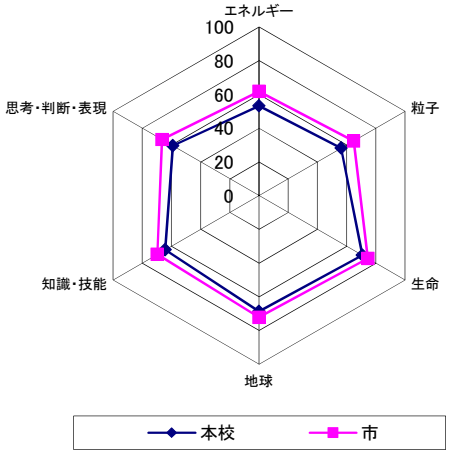
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市の平均と比較し、低い結果となった。 ○基本的な四則演算や、乗法公式といった文字式の計算に関しては、市の平均と同じ程度の正答率であった。計算の基礎・基本は定着していると見られる。 ●平方根の大小関係の比較や、平均を利用した応用問題の正答率が市の平均と比較して特に低かった。数の概念や、計算の意味をよく理解しないと解けない問題ができていなかった。	・基本的な計算練習に今後も取り組んでいくのはもちろん、発展的な課題にも多く取り組ませていきたい。その際に、どのような理屈で計算式を立てることができているのか、意味をよく確認しながら指導していきたい。
図形	市の平均と比較し、低い結果となった。 ○証明の問題については、市の平均と比較して同等か、それ以上の正答率であった。証明問題を多くこなしてきたことが、結果につながった。 ●ある事象について、数学的に置き換えて考える問題の正答率が低かった。数と式の領域と同様に、学習した内容をうまく活用できる生徒が少なかった。	・証明については、合同条件や証明の書き方など、理解できている生徒が多く見られたので、今後も継続して問題演習に取り組ませていきたい。一方、学習したことがどのように活用できるかという点について、理解が不十分であった。合同条件が定まる理由や、作図方法の理屈など、単純な技能だけでなく、思考力を育ませる指導をしていきたい。
関数	市の平均と比較し、低い結果となった。 ○関数をyとxの式で表したり、変化の割合を求めたりするような技能面に関しては、市の平均と同じ程度の正答率であった。 ●関数の文章問題では、正答率が市の平均を大きく下回った。文章から必要な情報を抜き取って考えたり、関数とみなして考えたりする問題の理解が不十分であった。	・関数の表・式・グラフのそれぞれの関係性を理解し、関数を式やグラフで表すことができていた。しかし、関数の活用の問題において、日常生活の事象を関数とみなして考える問題についての理解が不十分であったので、発展的な課題に多く取り組むようにしていきたい。また、それぞれの関数を比較し、特徴をより深く理解できるようにしていきたい。
データの活用	市の平均と比較し、低い結果となった。 ○ヒストグラムから、最頻値などの数値を読み取る問題については市の平均と同じ程度の正答率であった。 ●箱ひげ図に関する問題への理解が不十分であり、四分位範囲や箱ひげ図から情報を読み取る問題の正答率は、市の平均を下回った。	・ヒストグラムから代表値を読み取る問題に関しては、ある程度理解ができていたが、複数の資料からデータを考察する課題では理解が不十分であった。値を求める問題だけでなく、考察して文章にまとめる活動などを通して、データのどこに注目すればよいか理解を深めていきたい。 ・新学習指導要領の箱ひげ図については、問題演習が不足している点もあったので、時間をかけて指導していきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第３学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	53.3	61.8	60.6
	粒子	56.3	64.8	54.0
	生命	70.8	74.5	66.6
	地球	68.6	72.1	63.0
観点別	知識・技能	64.2	69.6	63.4
	思考・判断・表現	59.1	66.5	57.5

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

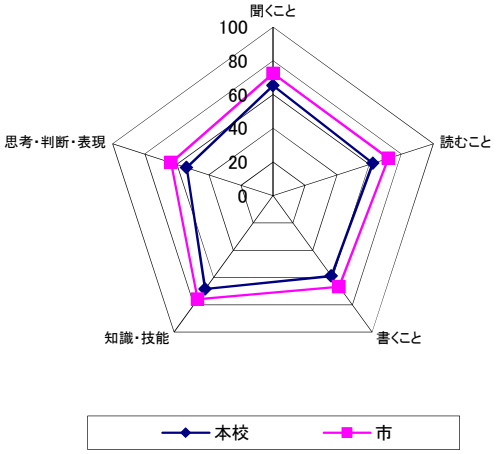
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「光の性質」では、誤答でも正答と似ているものを選択していることから、規則性についての基礎的な知識は身に付いている。 ●「電流と磁界」では、記述式の問題に対して無回答が20%以上と市の結果を8ポイントも上回った。思考力、判断力、表現力に課題がある。	・「光の性質」では、作図の演習をより多く取り入れる。 ・実験の考察や規則性を自分の言葉で考え、表現する話し合いや発表の場面を授業により多く取り入れる。 ・レポートの課題を増やして、自分の考えを文章で表現する練習を行う。
粒子	○アンモニアの性質についての記述では、正答率76.1%と良好であった。 ●酸化銀の熱分解の化学反応式をつくるとき、銀が分子をつくらないことを係数で表現することができない生徒が多かった。化学反応式の規則性の理解に課題が見られる。(正答率48.4%) ●実験結果のグラフを選ぶ問いでは正答率36.1%とかなり低く、数量的な結果の取り扱いに課題が見られる	・実験の結果を表、グラフ、割合等、多様な方法で処理し、考察に結び付ける練習を3年間の理科実験を通して身に付けさせる。 ・化学反応を粒子としてとらえ、化学反応式の規則性を見出し、実験の結果を化学反応式を活用して考えることができるように、化学の実験全般を通して、実験後のまとめの授業でデジタル教材を積極的に用いる。
生命	○植物の分類の基準と、それを基にした分類については、市の平均を上回った。 ●血液の成分の名称とはたらきが一致していない生徒が多かった(正答率47.1%) ○細胞分裂の過程については93.5%の生徒が正しく理解している。タブレットを活用した映像の視聴を積極的に行った成果と考えられる。	・動植物の分野は、他の領域に比べて得意と意識している生徒が多いので、デジタル教材などの映像を積極的に授業に取り入れ、より深い知識を身に付けられるようにする。
地球	○初期微動継続時間の求め方は87.7%の生徒が正答している。 ●地震の発生時刻や震源の距離を求め計算方法が分からない生徒がやや多い。(正答率54.8%)特に割り算については全分野にわたって苦手意識をもつ生徒が多い。 ○天気図の読み取りや寒冷前線の特徴について市よりやや正答率が高く、知識が身についている(76.8%)	・地震の問題演習を通して、地震についての基本的な知識を確実に身に付けることができるように、課題の目的を明確にしたプリントなどの課題を積極的に取り入れる。 ・計算の方法を自分で理由を考えながら見出せるように、より小さな段階を踏んだ課題を作成、実施する。

宇都宮市立鬼怒中学校 第３学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	65.4	72.5	70.5
	読むこと	62.3	71.9	66.9
	書くこと	58.9	66.8	59.7
観点別	知識・技能	68.5	76.0	73.9
	思考・判断・表現	53.9	63.6	55.3

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	市の平均よりも正答率が7.1ポイント下回った。 ○英文を聞き適切な絵を選ぶという問題と疑問詞を用いた疑問文への応答では比較的高い正答率であった。 ●対話文を聞いて、その内容を理解してさらに資料をもとに英語で答えることができていなかった。 ●資料やグラフを読み取る問題では、英文の長さに関わらず正答率が低い結果となった。	・教師の英語による発話を増やし、英語表現のインプット量を増やしていくとともに、特に複数教員で授業を行う際には理解の難しい生徒への支援も行っていく。 ・ALTとの会話テストを設けたり、他の生徒との英語によるコミュニケーションの場面をより多く設けていく。
読むこと	市の平均よりも正答率が9.6ポイント下回った。 ○短い英文を読み取り適切な答えを選ぶ問題では比較的正答率が高く、基礎的な文法事項が身についていることが伺える。 ●長文の読み取りになると内容や概要を把握することが難しく、語彙力と文法の活用能力の不足が見られる。	・じっくり細かく読むことと速く大まかに読むこととを指導していき、読解のスピードをつけていく。 ・パラグラフリーディングを取り入れた指導を行う。 ・語彙力の不足から内容を読み取ることができなかった様子が見られるので、語彙力を上げていけるように指導していく。
書くこと	市の平均よりも正答率が7.9ポイント下回った。 ○並べ替えの問題の正答率は比較的に高く、基礎的な語順の理解や文法の理解は身についていることが伺える。 ●場面やテーマ、条件に合わせて英文を書くことができていなかった。特に疑問詞を用いた疑問文を書く問題の正答率は低かった。	・単語テストや基本文テストを設けて、基礎的な語彙の定着と重要表現の活用を身に着けさせる。繰り返しの指導を継続的に行う。 ・学年を追うごとに自分のこと以外にも英文で表現できるように指導していく。